

# 校名：東京学芸大学附属世田谷中学校

所在地：〒158-0081 東京都世田谷区深沢4-3-1  
電話番号：03-5706-3301

記載日：2016年5月20日 記載者：鈴木雄治 記載者役職：副校長

## 校風、おおまかな特色について：

本校は東京都の南東部、世田谷区の緑の多い、閑静な住宅地の中にある。

特色として、自由で自立的な教育環境があげられるが、これは本校の教育全体でつくられている。教育目標でも個性と創造性を重視し、生徒が自ら考え行動できることを目指している。

教育課程の特色としては、学習を「基本学習」・「総合学習」・「生活学習」の3つの学習活動で構成している。3つの学習活動を有機的に結びつけることで、「21世紀型能力」などによばれる資質・能力を育成することを目指している。教科学習はもちろんであるが、資質、能力を育てるため、それらが総合的に発揮できる場として行事等を重視している。二大行事である春の運動会と秋の芸術発表会は、生徒たちが企画・運営に大きく携わり、貴重な体験と学習の場になっている。

教育研究では、特に教科教育研究に力を入れており、公開研究会、授業研究会、現職研修セミナーや冊子等で成果を公開している。毎年複数の教科で、夏季と春季の休業中に現職研修セミナーを継続的に開催している。

## 卒業生の活躍状況について：

半数程度が学芸大学附属高校に進学し、他の生徒は他の国立、東京都や神奈川県公立高校、私立高校に進学している。高校進学先までは把握しているが、その後の追跡調査はおこなっていない。同窓会が一部の状況については把握している。

大臣、大使経験者や最高裁判事、企業経営者、科学者、医師、弁護士、教育者、芸術家、音楽家、ジャーナリストなど様々な分野で活躍している。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

ほとんどが大学採用の教員であるが、学芸大学や他大学の教員等として転出する例はある。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

### 3つの学習形態

本校では、これからの時代に必要とされる資質と能力「21世紀型能力」を習得させるために、「基本学習」「総合学習」「生活学習」の3つの学習形態を有機的に結びつけることが有効だと考え、カリキュラム開発を進めている。

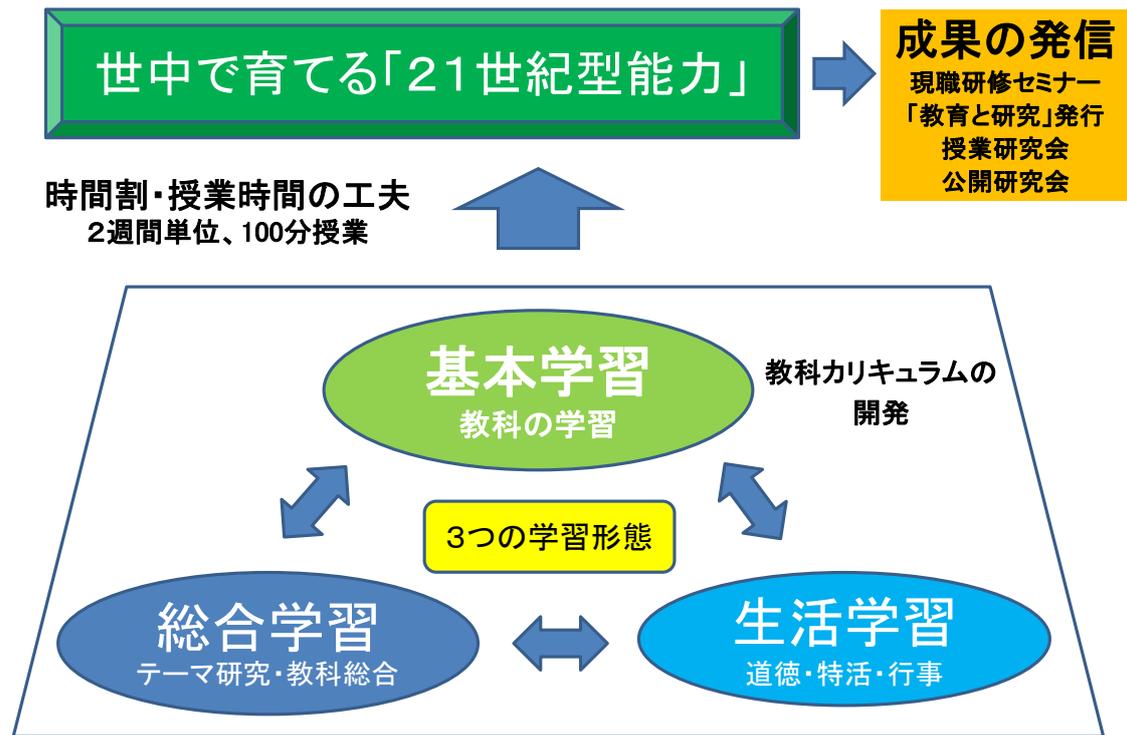
「基本学習」は、各教科の授業で、学習指導要領に定められた基礎・基本の徹底とそこで得た知識・技能を活用するための応用・深化・発展的な学習を含めて行っている。多様な学習活動の中で知識をもとにして考える力、自分の考えや発想を表現する力、コミュニケーションする力などを身につけることをねらいにしている。

「総合学習」では、テーマ研究という自ら選んだテーマで体験的・問題解決的な学習が中心で、自己学習力を育て、考え抜く力、思考力、表現力、創造性を伸ばすことをねらいとしている。そのほか、国語・英語のスピーチコンテストや理科の野外実習などの教科行事的な学習も行われている。

「生活学習」は、道徳・学級活動（特活）を中心に、学校行事、校外学習、宿泊行事などとも関連させ、総合的な実践力を育てている。

### 時間割の工夫

2週間単位で時間割を構成し、特に木曜日は2単位時間続きの100分間の授業にしている。これにより50分では難しい、実技教科の実習はもとより、実験・観察、調査、発表、話し合いなどの活動の時間が取りやすい。活動後の事後の振り返りや解説などの時間も取りやすく、生徒が主体的に活動しながら学びことを行っている。また、水曜日の午後に余裕が生まれるため、行事の準備や委員会活動の時間などを組み入れることも可能になっている。



## 成果の発信

公開研究会、授業研究会、また夏と春の現職研修セミナーなどで教科研究の成果を広く外部に発信している。また、開催については近隣の私立学校へもお知らせし、多くの先生方に参加していただいている。

年2回、「教育と研究」という本校の教育や研究実践を簡単にまとめた冊子を発行し、保護者、関東地区の国立附属中学校、近隣区の公立中学校に配付している。

## 大学教員との連携

英語のスピーチコンテストや理科の野外実習では、学芸大学の教員と共同し、当日はもちろん、事前学習等でも協力して指導にあたっている。

## 外部機関との連携

たとえば社会科では、区の選挙管理委員会、税務署等と協力しながら地方自治や選挙の学習、租税学習等の授業を行っている。

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

英語科は、数年に一度だが、世田谷区中学校英語研究会に授業を公開している。

PTA と協力しながら、土曜日に地域のスポーツ団体に施設の一部を貸し出している。

行政機関の連絡会とは別に、「7 校 2 園連絡協議会」という、周辺地域の私立公立を含めた幼・小・中・高の学校、自治会、児童委員、民生委員、保護司の方、警察などのメンバーで学期に一度、学校を会場にして生徒の健全育成のための情報交換をおこなっている。大学の附属学校という特徴を生かし、特別支援教育や防災教育など専門の大学教員に講演していただいている。また、この会では、年に一度であるが、地域でボランティア清掃活動もおこなっている。

防災関係では、隣接する区立小学校、学芸大学附属世田谷小学校とともに東京都の広域避難所に指定されている。また、世田谷区と協定を結び、第二順位避難所になっている。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

東京学芸大学という教員養成の基幹大学の附属校として、教育実習期間中はもちろんのこと、事前指導にも積極的に関わり、学生の教員としての実践的力量育成に取り組んでいる。また、大学全体での連携研究に実践面で積極的に協力するだけでなく、日常的な授業研究等でも大学教員との共同研究に取り組んでいる。

学校全体としても先進的な教育課程開発に取り組むべく日々の実践活動を行っている。国立教育政策研究所が「社会の変化に対応する資質や能力を育てる教育課程編成の基本原則」（平成 25 年 3 月）のなかで提案された「21 世紀型能力」を念頭におき、21 世紀の社会を生き抜いていく力をどのように培っていくかを主眼に置いて、教育課程の研究を平成 25 年度から行い、公開研究会等で成果を発表している。